



## 鷺見 <sup>やすひら</sup>靖平さん、<sup>はるか</sup>悠さんご夫妻

- ・ 出身：靖平さん－米子市  
悠さん－福島県
- ・ 南部町在住歴：10 ヶ月  
(2018 年 4 月に東京から移住)
- ・ 職業：靖平さん－米子市内の広告代理店  
悠さん－パート勤務

2019 年第 1 号の里人は、昨年東京から南部町へ移住して来た鷺見さんご夫妻。  
気さくな靖平さんと、癒しの空気感を持つ悠さんのお二人に、南部町に移り住んで来るまでの経緯取材させていただきました。

### “出逢い、結婚、そして南部町へ”

2013 年に東京で出逢った靖平さんと悠さん。  
付き合ってから 2 日目に「自分はいずれ鳥取に帰るから、それが受け入れられないのであれば、なかったことにしよう」と靖平さんは悠さんに伝えたのだとか。

20 歳の時に大学進学で東京に出た靖平さん。  
NGO に興味を持った時期もあったそうだが、東京で仕事をする上で、何に興味があるかを考えた時に浮かんだのはサッカーと映画の劇場営業。しかし、それらの夢は簡単には進まず、諦めることになったのだが、その時に靖平さんは 35 歳になったら鳥取に帰ろうと決めていたのだそう。

一方、“鳥取にいずれ帰る”と付き合ってから 2 日目に告げられた悠さんは、この先「東京に住み続けたい」とか「福島に戻りたい」とは特に考えておらず、鳥取の距離感も未来のことも当時は実感として湧かなかった部分もあり、あまり気にならず付き合うことになった。

その後、結婚した 2 人は、鳥取に行くことを見据えながらも仕事の兼ね合いなどから 2 年ほど東京に住んだ後、2018 年に入ってから東京にある鳥取県の定住機構も使いながら、仕事・家を決めて、4 月に南部町に引っ越してきた。

米子市に実家のある靖平さんだが、南部町に移住を決めたのにはいくつか理由がある。  
まず、移住相談会などのイベントで、南部町は移住サポートや制度が手厚く、南部町に来て欲しい！という思いを強く感じたそう。  
また、南部町には靖平さんの叔父の家があること、悠さんの生まれ育った福島県の郡部と雰囲気などが似ていることなども南部町に親近感を持った理由だ。  
そして、珈琲豆の焙煎をする悠さんにとって米子より南部町は環境が良いということだった。

でも、東京に住んでいながら、家や仕事を探すのは簡単ではない。  
なんと家が決まったのは去年の 4 月の頭だったのだそう。  
南部町のお試し住宅「えん処米や」に泊まり、現在住んでいる家を含めていくつか実際に家を紹介してもらった。

中にはアパートもあり、古民家よりも環境・設備などは良かったのだが、アパートに住むなら東京に住んでいるのと変わらないという思いに加え、珈琲の焙煎には不向きで、ちょうどそのとき空きのあった古民家に住むことを決めた。

都会からの移住を考える人にとって最大の問題になる、仕事探し。  
靖平さんは会社探しを2~3月の2ヶ月間程で行い、4月に面接を集中して受け今の仕事に就くことが決まったが、拠点はまだ都会にある人にとって離れた場所での就職活動は難しいことが多いと話す。

東京ではアウトソーシングの会社で勤めていた靖平さん。面接を複数受けた中で最終的に縁があったのは、県の定住機構の求人に出ていた広告代理店だそうだが、大手のリクルートサイトから定住機構の求人まで幅広く探し、給料が下がることは覚悟の上で、仕事に対する優先順位をつけて、希望の範囲内の会社をいくつか受けたという。  
都会と全く同じ仕事ではなくても、どこか共通する部分のある仕事はあるはずと話す。

## “引っ越し、生活、そしてこれから”

いざ新しい生活が始まるも、やはり実家や友人と遠く離れて見知らぬ土地で暮らす不安は大きく、心に余裕がなくなっていったという悠さん。  
慣れない環境から、買い物に行くだけでも近所の方に見られているような気がして外に出るのが億劫になったり、カメムシやムカデ等の虫の多さに心が折れたりして気持ちが落ち込んだという。

しかし少しずつ生活に慣れ、“自分は今後ここで生活していくのだ”という思いを感じるようになってから、“楽しく暮らしていきたい!”という気持ちが芽生えるようになり、今ではご近所さんはお野菜を分けてくれる温かさを感じる存在であり、何かあっても頼れるなど安心できる存在になっている。

また、珈琲豆の焙煎をされる悠さんは、生活が落ち着いてきたら豆の販売をしていくことが現在の目標。悠さんは東京にいた当時、カフェでのアルバイトがきっかけで珈琲に興味を持つようになり、珈琲豆屋でのアルバイトを経験したことでその興味が更に深まった。  
いわば嗜好品である珈琲だが、そこにあることでホッとさせてくれる世界共通の文化。  
実は鳥取は珈琲の消費量が全国2位なのだそうで、ハンドドリップする方も多い。そんな鳥取の方々の生活に溶け込むような豆を提供していけたら嬉しいと悠さんは話す。

靖平さんは、自分がやりたいことを断念したという思いがある分、悠さんの珈琲焙煎の目標はいつしか自分の夢の一部にもなっているのだそう。



渡邊舞 (わたなべまい) /大阪府出身  
南部町地域おこし協力隊

### ～取材者の一言～

まず、同年代の方と町内で出会う機会が少ない私にとって、今回の取材でお二人とお話してきたこと、全く知らない土地から移住されてきた悠さんの心情には特に共感できるところが沢山あったこと、話が盛り上がったことが個人的にはとても嬉しかったです！

町内の方々に驚見さんご夫妻のことを知ってもらっただけでなく、移住したいな～と思っているけど、なかなか一歩が踏み出せないという方々にも、そして南部町に興味を持って下さっている方々にも、参考になれば良いな～と思います！！

お二人の空気感にとっても癒された取材でした！